

1. 次期学習指導要領と ESD

2017 年 次期学習指導要領告示

前文「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」

幼稚園総則「持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。」

小学校総則「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指す」

中学校総則「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指す」

(1) 生きる力と ESD

生きる力の構成要素

- ①教科等で養う資質・能力
- ②全ての教科の基盤となる資質・能力
- ③現代的諸課題に対応できる力 ← ここを担うのが ESD

(2) 見方・考え方の育成

- ①知識を構造化する（因果関係で結び付ける）過程で養われる教科特有の見方・考え方
- ②教科横断的な学習による、見方・考え方の融合・洗練化
- ③実社会を教材にした学習による社会で役立つ見方・考え方への洗練化
（社会に開かれた教育課程）

(3) 現代的諸課題にはどのようなものがあるでしょうか？5つ書いてください。

--

さらにグループで話し合っ、人類の持続可能性にとって重要だと思われるもの3つに絞ってください。

現代的諸課題	選択した理由

2. 2015年 国連持続可能な開発目標の採択 17の目標と169のターゲット

目標1 (貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標2 (飢餓)	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (保健)	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 (ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
目標6 (水・衛生)	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標7 (エネルギー)	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 (経済成長と雇用)	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
目標10 (不平等)	各国内及び各国間の不平等を是正する。
目標11 (持続可能な都市)	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
目標12 (持続可能な生産と消費)	持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標14 (海洋資源)	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標15 (陸上資源)	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
目標16 (平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
目標17 (実施手段)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

これらを大まかにまとめると

①人と環境との関係に関する問題

②人と人・社会との関係に関する問題

(2) 持続可能な社会の創り手に育てたい価値観 (例)

①世代内の公正に配慮して行動する

②世代間の公正に配慮して行動する

③環境に配慮して行動する

④互いの人権や文化を尊重する

(3) 持続可能な社会の創りに育てたい能力 (例)

- ①クリティカルシンキング (批判的思考力・代替案の思考力)
- ②システムズシンキング (多面的・総合的思考力)
- ③長期的思考力 (データを分析し、計画を立てる力)
- ④コミュニケーション力 (情報と心情のやりとり)
- ⑤協働的行動力 (リーダーシップ、協力性、責任性)

3. ESDを指導する教員に求められる資質・能力

ESDを適切に計画し指導できる教員に求められる能力・態度



- ①教師としての基盤的力量：授業力・生徒指導・学級経営・子ども理解
- ②SD (持続可能な開発) に対する関心
- ③教材開発力
 - ・教材に気づく力
 - ・地域教材を開発する力
 - ・単元をデザインする力
- ④自らの実践を振り返り洗練化する力 (反省性)
- ⑤資質・能力を高める方策
 - ・校内の授業研究
 - ・研究会や自主的サークルでの継続的な研修
 - ・教育委員会主催の研究員制度への加入

4. 社会の持続可能性に関わる課題を発見するためのESDの視点

(国研の「持続可能な社会づくりの構成概念」より修正)

自然環境・社会環境	多様性	相互性	循環性
人や集団の行動	公平性	連携性	責任性

5. 指導の実際

(1) 教育課程の作成と不断の見直し

○一部の教員ではなく、学校全体で取り組むために

多くのユネスコスクールではE S Dカレンダーを作成し、チーム学校でE S Dカレンダーの見直しを行って、洗練化をしています。(資料参照)

【作り方】

- ①各学年ごとに、各教科の各月の単元名を書いていきます。総合的な学習の時間も現在実施しているものを書きます。
- ②学校で大切にしたいテーマをいくつか選びます。持続可能な開発目標（SDGs）を参考にされるとよいでしょう。
- ③選んだ学校のテーマと関連のあるものをテーマ別に色分けします。
- ④全学年のE S Dカレンダーを並べて俯瞰します。
- ⑤同じ色どうしの関連を考えます。特に、教科横断的な学習である総合的な学習の時間との関連は重要です。

【期待される効果】

- ・学習内容の縦のつながりが見えてきますので、指導の際の軽重が予測できます。
- ・特に中学校では、他の教科の学習内容との関連がわかり、内容を深めることができます。
歴史ー古典、公民ー英語、地理ー数学、
- ・特にルーティン化している総合的な学習の時間や特別活動の時間を再構築するのに効果的です。例えば野外活動ですが、自然環境に親しむ機会であり、仲間づくりなど、人と人との関係を見直す機会でもあります。もしルーティン化（例年通り主義）していると思われましたら、活動内容を再検討されてはいかがでしょうか。

(2) 次期学習指導要領で求められている授業展開 「主体的・対話的で深い学び」

これまでの授業実践で、ご自身がされていることをグループで共有してください。

①児童・生徒の学びを主体的にする導入の工夫

②児童・生徒の主体的な学びを継続するための工夫

③対話的な授業をするにあたって留意すること

④継続的な対話を生む方法を生徒にどう言って指導するか

⑤深い学びを支える振り返り（反省性）・メタ認知の育成（主体的な学び方の育成）

6. 授業実践例

実際の社会を教材化する上での単元展開の基本パターン

- ①インパクトのある導入を工夫し、課題意識をもたせる
- ②事実の収集・調査活動（文献調査・現地調査・インタビュー調査）
- ③収集したデータの分析を通じた課題へのアプローチ
- ④課題解決のための行動と振り返り

(1) 吉野川分水の開発

小学校4年生社会科：郷土の開発単元 → 総合的な学習「森林環境」

導入①奈良盆地の水不足の歴史（どこの天神社にもある馬の額、言い伝え、水争い）

現在は吉野川分水のおかげで、水に関しては安心して米作りができています。

調査：吉野川分水がどのようにして造られたのかを調べる

分析：吉野川分水を造る上での人々の協力（水没した村）、苦勞

導入②地域でとれたお米で作ったおにぎりを食べる

奈良県産「ひのひかり」は、6年連続で「特A」を受賞している。

おいしいお米はおいしい水から 吉野川分水の水はなぜいいのか

調査：吉野川分水の源流の村、川上村の取組を調べる「川上村宣言」

森と水の源流館との連携

分析：自分たちは下流にいい水を送ることを意識していない

いい水をつくってくれる森林環境 → 5年生の社会科で発展

行動：川・水を汚さないライフスタイル、地域への呼びかけ

※評価について

持続可能な社会は命令されてつくるというよりは、一人ひとりの意識と行動を変えることでつくっていくものです。ということは、自己評価によるメタ認知の育成が重要になります。

①何を学習したのか、学習内容にかかわる自己評価作文

毎時間の総合的な学習の時間で、何を学んだのかをミニ作文し、ためていきます。単元終了時にそれを時系列で並べ、自分の考え方の変化を自己評価作文として作成させます。教員は自己評価を学校のテーマの観点から「価値づけて」評価します。

②相互評価をもとにした、学習方法にかかわる自己評価作文

ペアをつくっておき、毎時間ごとに友達の学び方でよいと思ったところを見つけて、プレゼントカードに書きます。それをいったん教員が集め、目の付け所がいいと思ったところに赤線をひき、書いた本人に返します（書いた本人へのフィードバック）。そのカードを相手にプレゼントします（書かれた子への間接的フィードバック）。それをためていきます。

単元終了時に学習内容ごとにカードを集めて、紙に貼ります。「話し合いの日」「作業の日」「見学の日」「発表の日」など

これをもとに、自分の学び方を見直し、自己評価作文を作成します。

(2) 文化遺産から持続可能な社会づくりへの意欲を喚起する

小学校 6 年・中学校 1 年；総合的な学習の時間・春の遠足で奈良に来られる事前学習として
東大寺大仏の造立・復興

導入：世界中から大仏を見に来る人びと、世界遺産にも登録

調査：文献調査・見学、東大寺の代表的な行事である修二会についても追加調査

分析：文献で調査したことと、見学で見たものとの確認

大仏に込められた願い：「動植ことごとく栄むことを欲す」

修二会を 1200 年以上一度もとぎれることなくやり続けている理由「風雨順次」

行動：持続可能な社会づくりのための意欲化（環境・平和）

(3) 環境教育を ESD・環境教育へ

中学校：総合的な学習の時間

導入：身近な川に関する感想・経験の交流

調査①：身近な河川の調査：指標生物を用いた水質調査（別紙参照）：川の現状の把握

調査②：地域の地図を手に、高齢者・保護者（60 年前・30 年前）に聞き取り調査を行う。

どこに、どんな生き物がいたのか。どんな遊び・楽しみがあったのか。

ESD の一つの特徴は、空間軸だけでなく時間軸を取り入れて考察すること

分析：川が変わってしまった理由を考える

行動：「もとの川を取り戻したい。そのために自分にできることは？」切実感から行動化の促進

高齢者への聞き取り調査で、かつていた生き物（在来種）をターゲットにし、「〇〇の泳ぐ川を取り戻す作戦」を計画し、市の環境政策課、NPO、地域住民に働きかけ、市の環境改善に関わる協働取組に参画する。

7. まとめ

総合的な学習の時間の内容を新たにつくるのはなかなか大変ですね。1 年間に 1 本計画するという目標をもってされるといいかもしれません。まずは今されている授業実践を「環境」「人権」「多文化共生」「平和」「幸福」といった観点から見直し、それぞれの学習内容と「持続可能な社会の創り手」の関連を考え、2 学期からの授業計画や学校行事に生かされてはどうでしょうか。

奈良教育大学では、近畿圏を視野に ESD の推進を目的とした「近畿 ESD コンソーシアム」を構築し、ESD に関する様々な取組をしています。詳しくはホームページをご覧ください。

近畿 ESD コンソーシアム <https://jisedai.nara-edu.ac.jp/open/esd/>

また、今年の 4 月に日本 ESD 学会が設立されました。この学会はよくある大学教員をメインにしたものではなく、教員・NPO・自治体職員・学生・大学教員など、ESD に関心のある多様な方々が集まってできた学会です。詳しくは、ホームページを見てください。

日本 ESD 学会 <http://jised.srv.jp/>

別紙：ESD カレンダー

第6学年 ESDカレンダー										江東区立八名川小学校		
教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		学級討論会 をしよう		伝えられて きたもの			自分を見つ め直して		平和につい て考える			
算数	併句づくり											
理科		体のつくり と動き			生物とその環境		大地のつくりと変化		資料の調べ方・平均		生物と地球の環境	
社会				江戸の文化をつづ けた人々			長く続いた戦争と 人々の暮らし		日本とつながり の深い国々		世界の未来と 日本の役割	
総合	未来へはげばたけ			江戸・深川の歴史を調べ、町を語ろう					世界の平和って何？ 私たちにできることって何？			
英語						町の紹介できるかな						
特活		稲荷ずしを つくろう								八名川まつり		
道徳		長生き ばんざい				古きよき心		同じ地球の子 どもたち			世界が100人の 村だったら	
音楽												
図工						12年後の私						
体育			乳原体と体の抵抗力				喫煙・飲酒・薬物					
家庭							日常の食事と 調理の基礎					これからの 自分
		環境の教育		国際的な理解と協力			人権・命の教育		学習スキル			

総合的な学習の時間 第6学年 指導計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>単元名「未来にはげばたけ」(20時間)</p> <p>【ねらい】 日本には世界に負けないで暮らすための力があることを学び、他者と協力しながら様々な問題を乗り越えている人々の取り組みについて知る。</p> <p>【学びに火をつける】 ○今年ある仕事や数年前にはなくなるといった製造業をもとに、自分の将来の仕事について考える。 ○ゲストティーチャーを招き、日本には世界に負けないで暮らすための力があることを知る。</p> <p>【調べる】 ○自分が興味をもっている職業の分野について調査し、その分野に関する役割を自ら立て、発表、模範を行い、結果を出す。</p> <p>【まとめる】 ○結果をもとに、自分自身で取組と振り返りし、発表を出し、プレゼンテーションをつくる。</p> <p>【つたえ合う】 ○八名川まつりで、他の学年や保護者、地域の大人、来校者の方々にプレゼンテーションをする。</p> <p>【地域人材・関係機関】 ○IO TA 社長 太田寛治さん ○「オリエンタルランド」松本浩一さん</p>			<p>単元名「江戸・深川の歴史を調べ、この町を語ろう。」(14時間)</p> <p>【ねらい】 自分が生まれ育った地域の歴史や文化に目を向け、地域に対する誇りや愛着を育て、日本人としてのアイデンティティを育てる。</p> <p>【学びに火をつける】 ○国語教科書や歴史小説の秋さんの話をききかけに、自分が生まれ育った地域の歴史や文化に目を向け、「自分たちも様々な切り口からこの町の歴史や文化を語れるようになろう」という課題意識を明確にする。</p> <p>【調べる】 ○「物語」「江戸の文化」「歴史」「八名川の成り立ち」等のテーマ毎にグループを作り、調べ・発表の準備をする。</p> <p>【まとめる】 ○グループごとにプレゼンテーションを考えて、つくり、友だちに発表し、課題や工夫についてアドバイスをもらい、振り返る。</p> <p>【つたえ合う】 ○調べたことをもとに、グループでまとめ、5年生や家族・地域の方にポスターセッションで発表する。</p> <p>【地域人材・関係機関】 ○歴史小説家 牧秀孝先生 ○資料館資料館 久島健夫先生 ○深川江戸資料館 八名川地域、森下地域</p>				<p>「世界の平和って何？ 私たちにできることって何？」(20時間)</p> <p>【ねらい】 国際社会と日本の関係について調べ、これからの日本のあり方について考えていく。</p> <p>【学びに火をつける】 ○新聞やニュース、写真、資料などから日本の国際交流や国際協力の様子を知る。 ○平和な国際社会の実現に努力している国際連合の働きに関心をもたせる。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、世界の情勢を知る。</p> <p>【調べる】 ○平和な国際社会を目指して、日本が国際社会の中で重要な役割を果たしていることについて調べる。</p> <p>【まとめる】 ○調べたことをもとにこれからの日本のありかたについて考える。</p> <p>【つたえ合う】 ○世界の国々の人々とともに生きていくためには何が重要なのか自分なりに考えたことを発表する。</p> <p>【地域人材・関係機関】 ○JICA ○DVD 資料 (国際連合のはたらき)</p>				

身近な河川の調査：指標生物を用いた水質調査

表 1. 水質階級と指標生物の関係

きれいな水 (Ⅰ) の指標生物		ややきれいな水 (Ⅱ) の指標生物	
カワゲラ類	ヨコエビ類	コガタシマトビケラ類	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ類	ヘビトンボ	オオシマトビケラ	カワニナ類
ナガレトビケラ類	ブユ類	ヒラタドロムシ類	○ヤマトシジミ
ヤマトビケラ類	サワガニ	ゲンジボタル	○イシマキガイ
アミカ類	ナミウズムシ		
きれいな水 (Ⅰ) とややきれいな水 (Ⅱ) の両方で見られる生物 (指標生物ではない)			
チラカゲロウ	タニガワカゲロウ類	ニンギョウトビケラ類	ヒゲナガカワトビケラ類
きたない水 (Ⅲ) の指標生物		とてもきたない水 (Ⅳ) の指標生物	
ミズカマキリ	タニシ類	ユスリカ類	エラミミズ
ミズムシ	シマイシビル	チョウバエ類	サカマキガイ
○イソコツブムシ類	○ニホンドロソコエビ	アメリカザリガニ	

注) ○は海水の少し混ざっている汽水域汽水域の生物